

C 10 後遺症

最近、最も問題となっているのが後遺症です。

外国では long-COVID ともよばれ、治癒後の後遺症なのか、COVID-19(コロナ感染症)がそのまま継続しているのかもまだ確定されていません。発熱や SARS-CoV-19 が陰性化したあとにみられています。中国武漢の病院における調査では 76%もの退院者から何らかの症状あるとの報告もあります。国立国際医療研究センターの報告では 76%とされています(別掲 29)。多くの報告では 30~60%という報告が多いようです。

その症状は非常に多彩で、

倦怠感や筋力低下、頭痛や胸の痛み、激しい息切れ、呼吸困難、嗅覚障害、味覚障害、不眠、脱毛、動悸、関節痛、食欲不振、不安や気分の落ち込みなどです。重症からの回復者におおいとされる脳に靄がかかったようなぼんやりした状態が続くというものもあり、脳や脳幹へ長期の影響が残るという報告もあります(別掲 31、32)。またこれらの多くは感染している発症中と同様のものが多く、継続している症状であることも少なくありませんが、治癒したあと退院後に発症する例もあります。

発症者は重症者とは限らず、軽症者にもみられ、また年齢にも関係なく認められています。後遺症に関しては若年者のほうが重症で頻度としては高いという説もあります。重篤な呼吸器障害は重症に多いと報告されています。

すでに昨年より世界中で問題となっており、この点でもインフルエンザよりは遥かに大きな問題といえます。国内でもその治療に専門的に取り組む施設が増えています。神奈川県内では聖マリアンナ医科大学が専門外来を有し、東京の北里大学東洋医学研究所も治療に当たっています(別掲 22、30)。